

バイオ産業の創出は息の長い期間を必要とする

バイオテクノロジー戦略大綱（以下この大綱）は2002年に出されました。しかし現在、この大綱が出されたことを覚えている人がどれくらいいるのでしょうか？ましてやその内容について記憶の片すみにでも持っている人は皆無に近いのではないかと思います。

日本はバイオテクノロジーが拓く「よりよく“生きる”よりよく“食べる”よりよく“暮らす”」社会像の実現を目指して、3つの戦略 ①研究開発の圧倒的充実 ②産業化プロセスの抜本的強化 ③国民理解の徹底的浸透 を掲げ、2010年には市場規模24.2兆円（その他を含めて25兆円）のバイオ関連産業を創出すると打ち出しました。

そしてこの大綱中の〈エピローグ〉末尾で高峰譲吉を引き合いに出して「100年前の日本人にできて、今の日本人にできないはずはない。」と結びました。

この大綱から6年が経過した2008年7月の中間総括では、戦略①②③ともに順調に目標達成に向けた進捗をしているとのことでした。もう8年も前の話です。

2008年7月に日本バイオ産業人会議が提言をまとめ、「BT 戦略大綱の策定から6年が経過し、政策面では着実な取り組みがなされてきている。しかし、この6年間で日本の BT 産業の国際競争力低下が現実の状況となってきている。問題意識とスピード感を持って国家戦略・国家目標を見直すことが必要である。このため基本課題を掘り出し、オールジャパンで取組む“新しいBT 戦略”を策定すべきである。」として「新しい戦略は社会変革を伴うものでなければならない。世界の動きは速く激しい。オールジャパンで取組むテーマのPDCA（企画・実施・評価・改善）を定期的に行いながら推進する体制づくりが求められる。」と述べています。

果たしてこの大綱について、最終的にどのような総括がなされたのか、私の検索が不十分なのか、見つけられませんでした。

いずれにしろ真摯な総括作業に取り組み、問題の根底にあるものを直視しなければ次なる施策・方針が優れたものになるはずがありません。

日本のノーベル賞受賞者の殆どの方たちが“基礎研究の充実を図るべきである”旨の発言をされています。この大綱の戦略①研究開発の圧倒的な充実 は、基礎研究の成果を開発研究に生かすことの意と思いますが、それを受けて②産業化プロセスの抜本的な強化 までを短期間に達成し、25兆円もの産業創出を“思い描く”のは楽しい思考のプロセスだったと思いますが現実には厳しいものです。

「政策面だけでなく基礎研究を踏まえた着実な取り組み」が求められます。

平成25年度の補正予算に550億円を計上し、基金を造成し、大臣、副大臣を含む「革新的研究開発推進会議」の下に“革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)”が立ち上げられプログラムマネジャー方式という仕組みでバイオだけではなくエネルギー、介護、ITの分野にわたる新たな取り組みが始まっていますが、ひょっとするとこの取り組みがBT戦略

大綱の失敗を受けての総括・方針の一部なのかも知れません。

過去 10 余年間、毎月のように中国に仕事で出かけていました。中国も日本同様に短期に実利を求め成果を出さなければ地位が（多分）安泰ではないのだろうと想像しますが、生命科学産業がなかなか育たずに苦勞していることを実感します。

（私は“中国生物技術創新服務連盟”の国際市場代言人と北京生物工程学会の外国人で唯一人の理事を委嘱されています。）

日本よりもより直接的に政府が生命科学へ具体的に目に見える形の投資をしており（やはり箱物が目につきますが）、北京では 2 か所に大きなライフサイエンスパークが造られ、現在も継続して投資が行われています。そのうちの一つ「中関村生命科学園」の本部建物の一角に私が関係する会社が入っています。周辺を写真でご紹介します（次頁に掲載）。

去年、この生命科学園の一角に巨大な北京大学医学部の附属病院が開院しました。この病院横には研究所も設置され産学連携をより密にする方針を持っており、米国で研究していた方たちが戻られて中核をなしてきています。遼寧省本溪経済開発区でも複数の大学の理系学部を開発区に集めるなど、凡そ日本では考えられないことを行い、人材の育成・供給を一貫しようとしています。

先行している日本が「B T 産業の国際競争力の低下」と認識する中で、まだ競争にも参加していない中国が、それでも政策面では継続して投資を繰り返している現状は侮れないと思います。10 年、20 年あるいは 30 年先になるかも知れませんが地道な努力、継続した施策がこの分野には必要に思います。

「NPO バイオものづくり中部」の活動を続けてきましたが、産業育成に向けての日本の政策面の取り組みが限りなくゼロに感じられ、彼我を複雑な気持ちでみているところです。

（西田克彦）



中関村生命科学園の計画図



中関村生命科学園の本部建物（写真の2階端の辺りに私の会社があります。北朝鮮の金正日総書記もこの生命科学園を見学に来たことがあります。）



本部建物の向かいに 2 年ほど前に新しくこの建物ができて、本部建物に入っていたノボノルディスク（本社：デンマークの糖尿病、成長ホルモン領域で知られる企業）が移りました。



生命科学園の本部建物外観の一部